

学生担当者報 6

発行 / 天理教学生担当委員会

発行責任者 / 茶谷良佐

編集責任者 / 辻 雄二郎

TEL 0743-63-1511(内線5817)、直通:0743-63-2489
E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

FAX 0743-62-5780
TSA Website <https://tsa.tenrikyo.or.jp>

Vol. 400
立教183年
2020年
5月25日発行



私は左利きでほとんどの作業を左手で行うが、箸と鉛筆だけは親が直してくれたので右手を使う。ただ、包丁は特殊な使い方になってしまふ。野菜などを刻んだりスライスしたりする時は左手を使うが、りんごや果物の皮を剥くのは右手しかできない。切つたり剥いたりするびに両方の手で包丁の柄を持つので、いつも柄がベチャベチャになってしまふ。こんな特殊な包丁の使い方をする人は人生で出会ったことがなかつた、三十六歳になるまでは。高校から家を出て以来、約二十年ぶりの実家暮らし。ある日、りんごを剥いている父を見て驚愕した。私と同じ左利きの父も右手で皮を剥いている。こんな近くに同じ包丁の使い方をする人が居たなんて、まさに灯台下暗しである。

子が親に似る要素は主に二つある。

一つは遺伝子によるもので、もう一つは、子どもの頃に親の姿や教育を手本にするからと言われている。包丁の使い方が遺伝子に組み込まれているとは考えにくいので、記憶には無いがおそらく父がりんごを剥く姿を見て学んだのだろう。子どもの頃、父からいつもトイレのスリッパを揃えるよう口を酸っぱくして注意された。あまりにも揃えないでの、時にはトイレに閉じ込められることがあった。そのおかげで今はしつかり揃えられる。これも大人になつてから気付いたことだが、父はほんと揃えない。多分自分ができないから、子どもにはちゃんと揃えられる

大人になつてほしいとの親心で言つてゐたのだろう。そう考えると親の姿や教育は、子どもや学生の人間形成の上で非常に大切なことではないだろうか。現在、世界では新型コロナウイルスの影響でさまざまな行事が中止となり、夏の学生生徒修養会高校の部も中止となつた。学校にも行けず子どもが家にいる機会が増えた今は、普段より多くの親の姿を見せられる時でもあり、信仰することの素晴らしさを伝えられる絶好の機会であると思う。前真柱様は、「一遍で分からなければ、二度三度。それで分からなければもっと分かりやすい、その子の得心のいくような表現の仕方に、今までの表現の仕方を変えてしまつても、心を配つていくだけの鷹揚さ」というものが、是が非でも必要だ。それによつて、育つも育たぬも決まる所で、成八年度(学生担当者大会)と仰せられた。

子ども、特に思春期の頃は親の言うことを素直に聞いてはくれない。しかし私たちがそうであつたように、いずれ分かってくれると信じ、一遍で分からなければ二度三度と誠の心をもつて伝え続けよう。

令和2年 学生担当委員会 活動方針 『誠の心で人材の育成につとめよう』

学生担当者報

立教183年5月25日

お知らせ

六月例会

各地の動き

【直属学生層育成者講習会】

左記の教会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になりました。

・山陽大教会 5月21日

・堺大教会 5月23日

・防府大教会 5月23日

学生層育成者講習会

日程・会場案内

【直属】

・都賀	6月21日12時30分～	大教会
・日野	6月22日10時～	大教会
・西海	6月22日12時～	大教会
・北洋	6月22日12時～	大教会
・芦津	6月23日12時15分～	大教会
・明和	6月24日11時30分～	大教会

報告

四月例会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため「四月例会」は中止といたしました。

【立教183年4月30日付】	人事
【学生担当委員会事務局退職者】	吉田あゆみ(岡・東松浦)
《立教183年4月16日～5月15日》	担当者活動部部会
4月20日	まなびばチーム会議
27日	研修会チークム会議
5月6日	学生部部会
8日	担当者活動部部会
11日	学修部部会
12日	編集部部会

業務記録



web

明日につながる学生WEBSITE

Happist

<https://happist.net>

一遍で分からなければ、一度二度

学生生徒修養会部 勝村 宏樹 委員



第五十七期 天理教学生会スローガン及び重点活動項目

道の学生成人目標

立教183年5月25日

- 一、生かされていることに感謝しよう
- 一、お道の素晴らしさを伝えよう
- 一、進んで教会につながろう

○スローガン

「あつたかい心で繋がり合い、
兄弟姉妹と共にをやを求める姿になろう」

○重点活動項目

- ・おつとめ
- ・教理勉強（稿本天理教教祖伝逸話篇を基に）
- ・仲間への声かけ

立教183年5月25日
学生担当者報



<https://happist.net/>

web
Happist

2020 06

連載 毎週月曜更新

・教理コーナー

出会い ふれあい いたすけあい 高見 宇造（本部准員 和爾分教会長）

明日の地図ひろげて

らくら 每週金曜更新

・四コマ漫画

おさんぽ日和

作・画 みっくす



※内容は一部変更になる場合があります。

南大教会学生担当委員会前委員長 北浦善道

誠の心で人材の育成につとめよう

学生修養会一学修プラス1ー

春の学生おぢばがえりー春学どっと鼓舞ー

今年は昨年以上に学修に力を入れていきたい。たとえば、学生への受講呼びかけを今までよりも「もう一工夫」してみる。あるいは、教長や親への働きかけを普段よりも「もう一手間」増やしてみる。そうした一つ一つの「+1」を積み重ねていくことによって、いつもより「+1」の受講者のご守護を目指したい。もちろん、事後の丹精の上にも「+1」を忘れないようにしていきたい。「学修プラス1」を合い言葉に誠の心で頑張りましょう。

学生のときから事あるごとにおぢばに帰らせてもらうことは、ようぼくとして成人する上でとても重要なことである。まずは私たち担当者が、道につながる学生はもちろんのこと、未だおぢばに帰ったことのない学生に対しても、おたすけ心を持って積極的に声をかけ、春学の参加者がどっと（大勢）増えるような御守護を目指したい。そして、春学は、学生自身が自らのおたすけ心を發揮して友だちをおぢばへ誘える絶好の機会でもあるので、学生の自主的な取り組みをサポート「春学どっと鼓舞」を合い言葉に誠の心で頑張りましょう。

大教会青年中、親奥様とよく一緒におぢばを参拝した。いつも神殿から教祖殿へは中庭を通る。腰が曲がっておられるので、自分で押し車で移動され、階段は私と腕を組んで昇殿する。ある日、視線を感じた。拭き掃除している老婦人の厳しい目。ハッピを見て納得。親奥様の息子さんが会長をされている所属。「ご存じなのだろう」そう思った。しかし、参拝の後、ますます鋭い目で見てくる。そして親奥様に「あんたそんなことしてたらいつまでも治らんわ。これ持つて掃除しなさい」と雑巾を差し出した。親奥様は腕から離れ、雑巾を頂き、拭き掃除をした。そして「有難うございます。おかげで楽になりました」と雑巾を返された。その後「あの方、教祖や。教祖が、あの方通してひのきしんさせてくださいましたんや。有難いなあ」と私に。「教祖と違う。息子さんの教会の信者さんやん」と思った。

あれから二十五年。うまくことが運ばない時、思うようにいかない時、このことをよく思い出す。ある日、親奥様に「ひながたを通るには、どのようにしたらいいのですか」と尋ねる方があいた。しばらく考えられ「日々、喜ぶことやなあ」と答えられた。恩師のことを思い出しながら御用させていただいている。